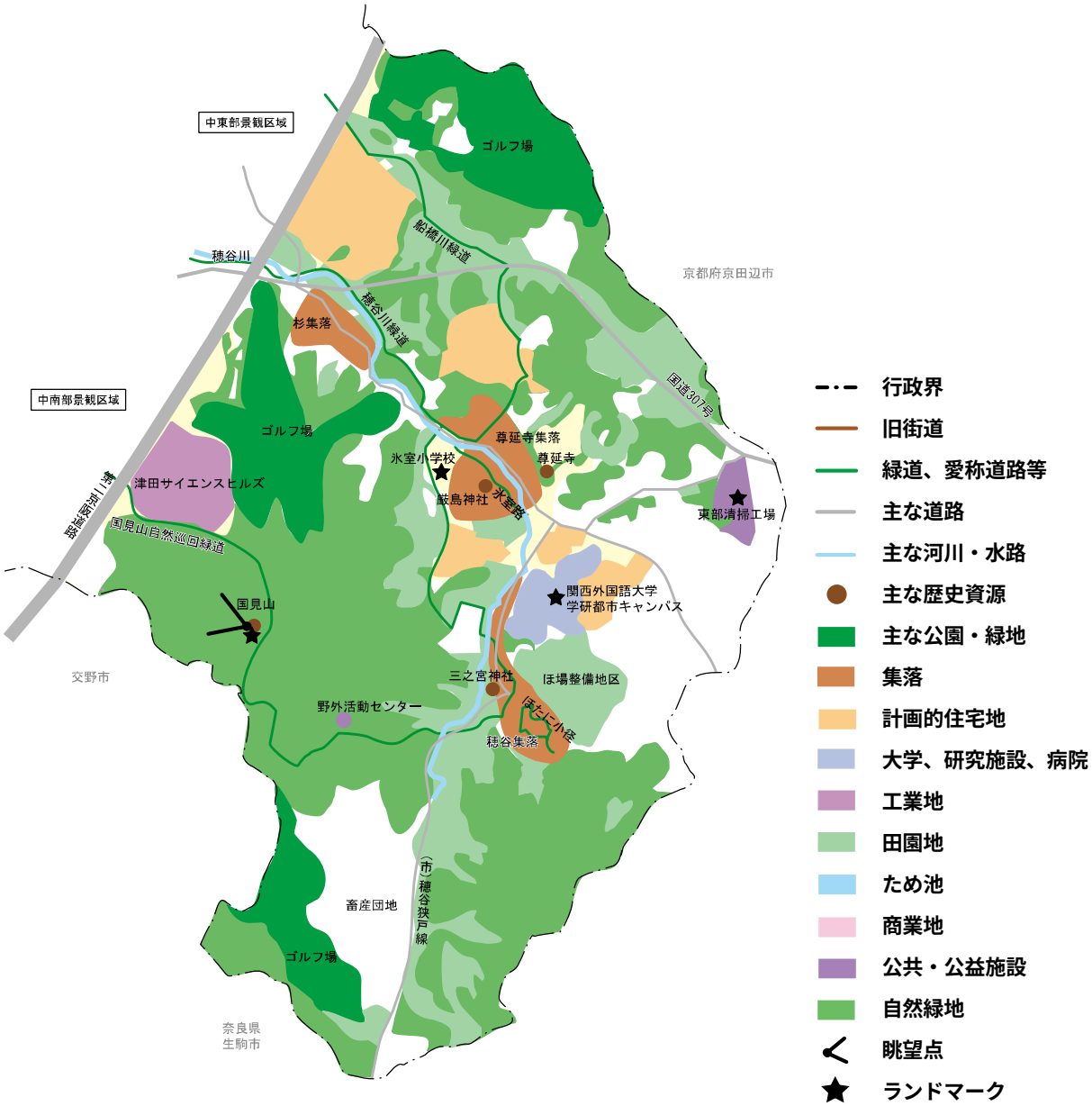
（9）東部景観区域

○課題と方向性

東部景観区域は生駒山系の緑とともに枚方市内でも多くの農地が残る区域です。国見山からの眺望は枚方八景の一つに数えられており、身近な自然環境として市民に親しまれています。また山間地には、大和棟※などの特徴的な文化を今に伝えている穂谷などの集落が残っており、里山の景観を形成しています。

一方で、生駒山系山麓に広域幹線である第二京阪道路が建設され、また、関西文化学術研究都市構想のもとに、氷室地区には関西外国語大学、津田地区には津田サイエンスヒルズが開発され、第二京阪道路と国道３０７号を都市軸とした新しいまちへと姿を変えつつあります。今後も緑いきづく豊かな自然とバランス良く共存できる新たなまちなみを育んでいきます。

東部景観区域　　区域現況図



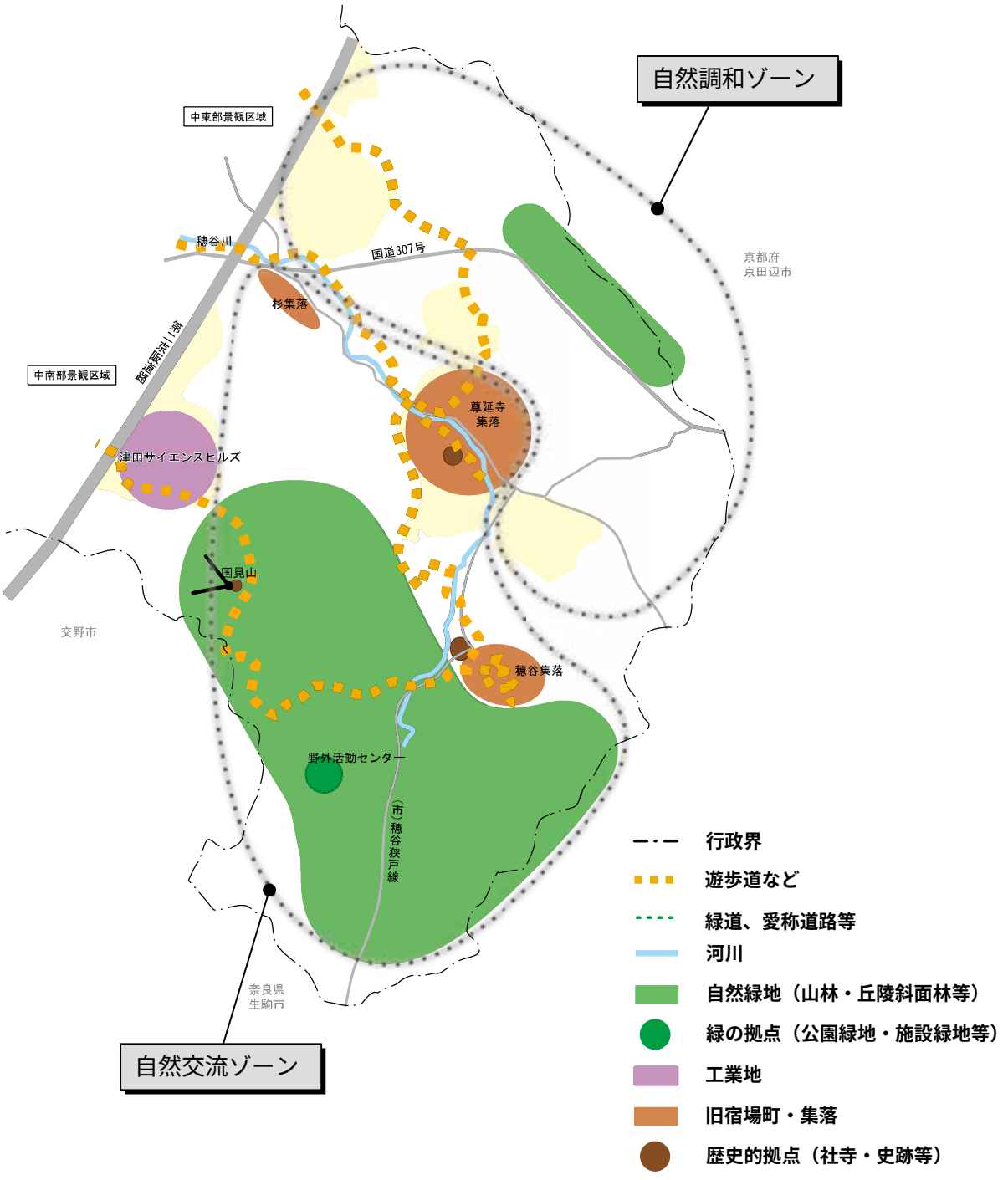
景観形成の方針

１．生駒の山なみと調和したまちづくりの推進

２．枚方を代表する豊かな自然環境の保全と自然との交流空間の整備

３．地域の骨格となる道路整備に伴う沿道景観の形成

東部景観区域　　景観形成概念図



○　景観形成の方向

自然調和ゾーン

地域の緑豊かな環境を継承し、自然と市街地とのバランスの取れた景観形成を図ります。

「緑と調和したまちづくり」

・まちを縁どる緑の稜線※やまとまった樹林の保全を図ります。
・地形や自然などの周辺環境に配慮したまちなみを育みます」。
・良好な農地の保全を図ります。
・緑豊かな周辺環境と調和したスポーツ公園の整備を図ります。

「山なみと調和した沿道景観の形成」

・周囲の山なみと調和した個性ある沿道景観をつくるとともに、自然巡回路との連携を図ります。

【関連構想およびプロジェクト】

関西文化学術研究都市サード・ステージ・プラン
里山保全基本計画
(仮称)東部スポーツ公園整備事業
氷室地域まちづくり構想

国道 307 号

自然交流ゾーン

枚方の象徴的自然である生駒の緑を守り育て、受け継いでいくとともに、人と自然、都市と農村の交流の場として活かします。

「豊かな自然の保全」

・市のシンボルとなる生駒山系の里山景観を守ります。
・良好な里山の風景をとどめる杉、尊延寺、穂谷の集落景観の保全を図ります。
・棚田など美しい田園風景を守ります。

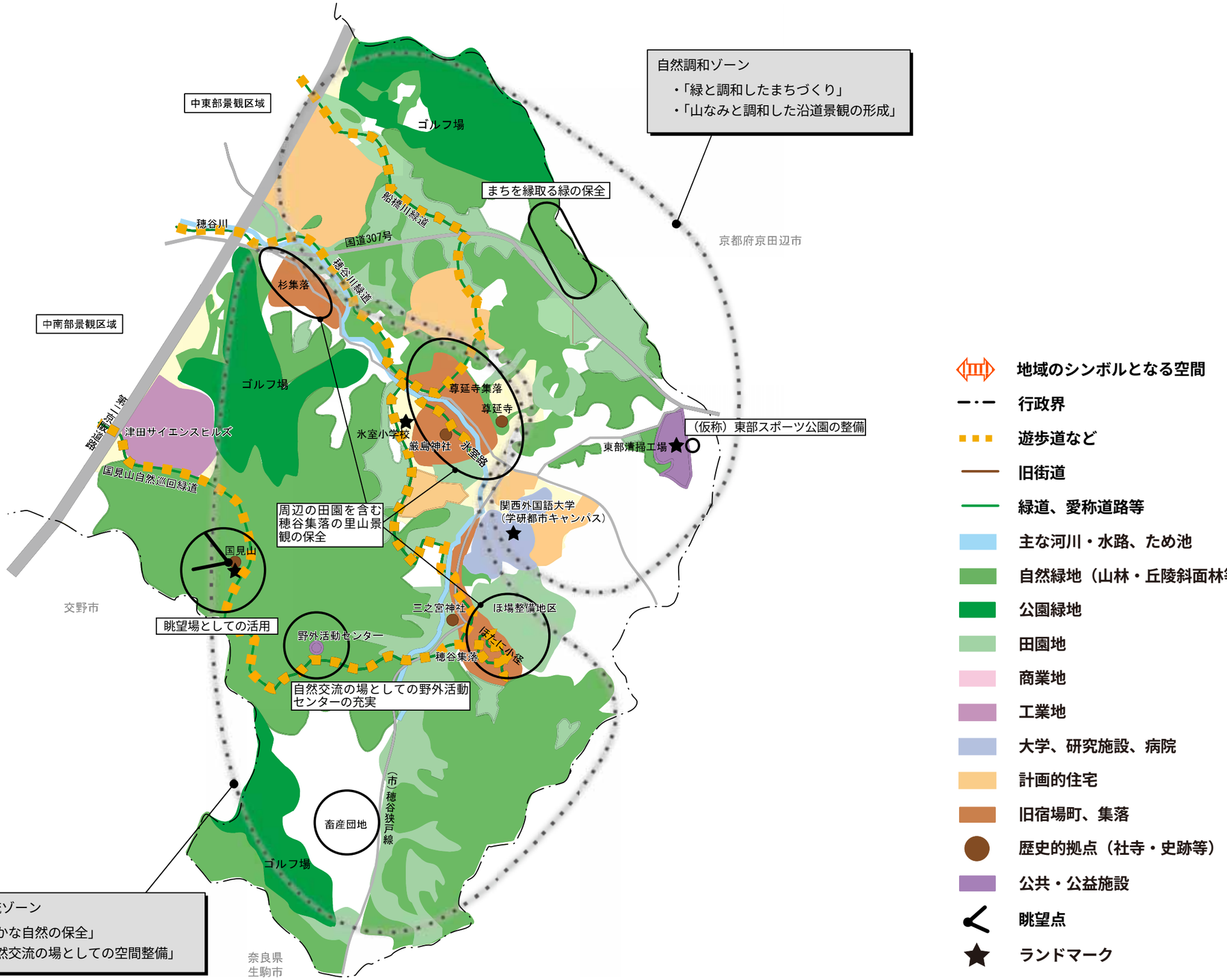
「自然交流の場としての空間整備」

・野外活動センターを自然とのふれあいの場として充実を図り、国見山を良好な眺望場として活用します。
・環状自然歩道整備計画と連携した自然巡回路の保全を図ります。

【関連構想およびプロジェクト】

大阪府環状自然歩道整備計画
里山保全基本計画
氷室地域まちづくり構想

穂谷集落

穂谷集落

東部景観区域　　景観形成構想図